

2001 年度 JLA 中堅職員ステップアップ研修

2002 年 3 月 4 日 (第 11 回)

斎藤 文男 (富士大学経済学部)

小田 光宏 (青山学院大学文学部)

領域：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上 (区分 B ③)

## レファレンスクエスチョンの処理

- 1 はじめに (オリエンテーション)
  - ・ ご挨拶
    - 講師紹介
    - 本日のプログラムの紹介
  - ・ トランザクション記録の意義
    - ツール利用の把握
    - 戦略と手順 (プロセス) の再構成
- 2 レファレンスクエスチョンへの取り組み(1)：課題 1, 課題 2, 課題 3
- 3 検索に向けてのストラテジー
  - ・ 多様なアプローチの想定 (課題 2 と課題 3 を例にして)
    - 主題と検索語 (項目) の広がりの可能性
      - ・ つばめ
      - ・ 帰巢
    - 検索する情報の多面的な性質
      - ・ 地理的な情報
      - ・ 地域に関する情報
      - ・ 文学碑に関する情報
  - ・ プロセスの確認 (構想)
    - ツールの選択 = メディア, タイプ (種類), タイトル
    - 検索手段の選定 = 目次, 見出しの通覧, 索引
    - 結果の成否 = 成功時のリスク, 失敗時の改善点
- 4 レファレンスクエスチョンへの取り組み(2)：課題 4, 課題 5

## 5 レフェラルサービスの位置づけ

- ・二つの用語
  - 紹介
  - 照会
- ・二つの関係の準備
  - 他の図書館との協力関係（協力レファレンス）
  - 他の機関との連携
- ・対象

## 6 レファレンスクエスチョンへの取り組み(3)：課題6，課題7，課題8

## 7 ネットワーク情報源の可能性

- ・現状
  - 有効性（非商業的情報の発信の拡大）
  - 制約（情報の変化，信頼性など）
- ・効果的な利用方法
  - ヒントとなる情報の入手
  - カレントな情報の入手
  - 裏付け（印刷メディアとの照合）の必要性
- ・「レファレンス」の原義に基づく対応
  - 典拠（再確認可能性）としての「参照」
  - URLの明示
  - 確認日時の提示
- ・留意点
  - アクセスするサイト（公式ページ，WebOPAC……）
  - 検索エンジンの活用（ディレクトリ型，ロボット型）

## 8 レファレンスクエスチョンへの取り組み(4)：課題9，課題10

## 9 今回の研修において，扱われていない「情報サービス」関係の領域（おわりに代えて）

- ・原理的理解（歴史的理解）
  - 「利用者教育」との関係
  - 「読書案内」との関係
- ・構造的な位置づけ
  - 資料組織技能の向上
  - 情報サービスの経営面の工夫（探索結果の組織化など）
- ・情報検索技能
  - 情報検索にかかわる諸技術
  - データベース（レファレンスリンク集）の作成技術